

- 首都高グループは2050年カーボンニュートラルを目指すことを宣言
- 2022年3月 首都高カーボンニュートラル戦略を策定

## 1 カーボンニュートラル実現に向けた目指すべきゴールの考え方

- 2050年(目指すべきゴール) → カーボンニュートラル実現
- 2030年度(目指すべき中間目標) → ・次世代自動車の普及等に加えて、交通円滑化のさらなる推進により、自動車交通からのCO<sub>2</sub>排出量を約3割削減  
 ・事業活動に伴うCO<sub>2</sub>排出量約5割削減

## 2 2050年の首都高の姿

- 首都高ネットワークがさらに強化され、安全性や利便性が益々向上。持続可能な社会の実現に向けて2050年も地域社会との共生を図りながら、首都圏の大動脈として変わらず「ひと・まち・くらし」を支えている。
- 先端技術を活かした交通マネジメントを推進。首都高ネットワークを最大限有効活用した脱炭素でスムーズな道路交通が確保されている。
  - ・ ボトルネック対策、より高度な情報提供、混雑状況に応じた料金設定などによる交通円滑化をさらに推進
  - ・ 非接触給電システムや全PAにEV・PHV用充電器や燃料電池車用水素ステーションを配置するなど、次世代自動車化を推進
  - ・ 自動運転とカーシェアリング・ライドシェアが組み合わさることで自動車の公共交通化が進み、首都高に新たなモビリティサービスを導入

## 3 3つの基本方針

- 1 ネットワーク機能強化への新たなアプローチ**  
 首都高インフラを最大限有効活用するため、既存のネットワークを賢く使う交通マネジメントを推進して利便性のさらなる向上と自動車交通からのCO<sub>2</sub>排出量削減
- 2 社会インフラ企業としての自助努力**  
 道路施設への省エネルギー化を徹底、再生可能エネルギーを最大限導入、加えて施設への緑化推進により自らのCO<sub>2</sub>排出を抑制
- 3 グリーン社会との共創(産業界とのコラボ)**  
 地域社会との共生や、様々な分野の企業・団体等産業界とも連携して新技術開発を積極的に進め、ゼロエミッション電源拡充を下支え

## リーディングプロジェクト 3つの基本方針に基づく12のプロジェクトを策定

- ① 既存のネットワークを賢く使う交通マネジメントの推進
- ② ネットワークの充実
- ③ 建設時・維持管理の環境負荷低減
- ④ 道路照明等事業活動の最大限の省エネルギー化
- ⑤ 業務用車両への次世代自動車導入実施
- ⑥ 企業活動におけるCO<sub>2</sub>・廃棄物の削減
- ⑦ 業務効率化のためのDXの戦略的導入
- ⑧ 新技術開発の推進
- ⑨ 環境配慮型PAの整備
- ⑩ CO<sub>2</sub>吸収への取り組み
- ⑪ 次世代自動車普及のための環境整備
- ⑫ 沿道環境の改善

熟度に応じて2つのステージに分類

# 「首都高カーボンニュートラル戦略」の策定

## ○ ロードマップ:2050年カーボンニュートラルに向けた具体的なスケジュールを策定

**STAGE 1** : 2030年度までの実施を目指す、または取り組みを継続する具体施策

**STAGE 2** : 2050年カーボンニュートラルに向けて実現可能性の検討を進める具体施策

2022年度

2030年度

2050年

2050年の将来の姿を見据えながら、2030年度を目標に策定

目指すべき中間目標

目指すべきゴール



今回提示したリーディングプロジェクトは、今後中期経営計画の中でその取り組みを具体的に明らかにし、熟度が高いものから順次実施します。  
また、リーディングプロジェクトは社会状況や技術革新の動向を踏まえ、適宜、追加・更新します。

# リーディングプロジェクト ～ネットワーク機能強化への新たなアプローチ～

## 第3章 目標達成に向けた3つの基本方針 1 ネットワーク機能強化への新たなアプローチ

### ① 既存のネットワークを賢く使う交通マネジメントの推進



#### 円滑で快適な道路サービスの推進 STAGE 1

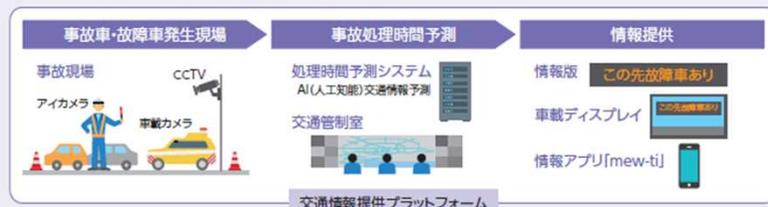
これまで培ってきた技術力を最大限に活用するとともに、都市内プロジェクトを着実に実施してきた強みを活かし、首都高ネットワークをさらに強化し利便性を向上させ、環境負荷低減、エコドライブの推進に寄与します。

- エスコートライトによる速度低下の抑制
- 安全・快適に走行するための看板や路面標示による注意喚起の改善
- 付加車線の設置や分合流部の拡幅等の機能強化
- 交通データを活用した合流部における車線の案内
- 安全・快適に走行できる区画線の運用改善
- 混雑状況に応じた機動的な料金などによる交通円滑化
- 交通影響の低減を目的とした工事の省力化、効率化
- 事故・故障車処理の迅速化

#### エスコートライトによる速度低下の抑制



#### 事故処理時間予測情報の提供による交通分散の促進

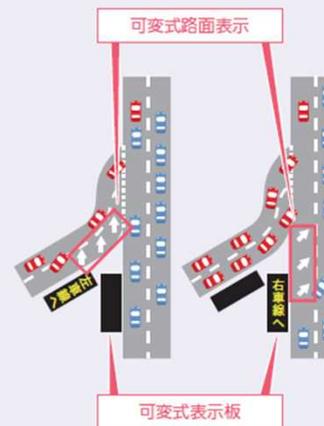


#### お客さまの行動変容の促進 STAGE 1

お客さまへの情報提供により安全性、走行快適性を向上します。

- 渋滞を避けた利用を促す各種情報の提供

#### 可変式路面標示



#### 車線規制による迂回路のご案内(2021年度の事例)



#### 広域的な迂回誘導による渋滞緩和



※ STAGE 1 : 2030年度までの実施を目指す、または取り組みを継続  
STAGE 2 : 2050年カーボンニュートラルに向けて実現可能性の検討を進める

## 11 次世代自動車普及のための環境整備



### EV用充電器の都市計画駐車場等への配備展開

STAGE 1 STAGE 2

- 高速上のみならず、次世代自動車普及への下支えとして  
都市計画駐車場へのEV用充電器配備の推進 **STAGE 1**
- 都市計画駐車場以外の高架下駐車場へのEV用充電器配備検討 **STAGE 2**



6台同時充電可能な新型EV用急速充電器(大黒PA)

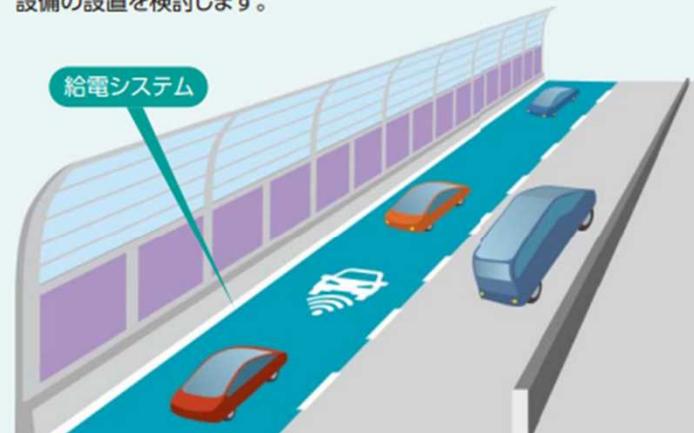
### 燃料電池車普及への対応 **STAGE 2**

次世代自動車の普及対応のうち、特に燃料電池車(FCV)については自動車産業の動向や燃料電池車の普及状況を踏まえて水素ステーション設置等の可能性を検討します。



### 非接触給電システム整備 **STAGE 2**

次世代自動車普及への下支えに向け、従来からのケーブルによる充電ではなく、PAの駐車場や路面などワイヤレスでの給電が可能となる設備の設置を検討します。



# リーディングプロジェクト ～社会インフラ企業としての自助努力～

第3章 目標達成に向けた3つの基本方針

2 社会インフラ企業としての自助努力

## 4 道路照明等事業活動の最大限の省エネルギー化

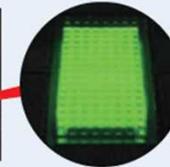
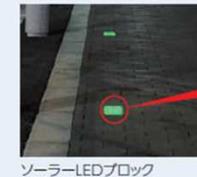


### 道路照明等のLED化 STAGE 1

道路照明等のLED化を進めることで電力の消費量を削減します。



#### PA等施設のLED化



### 電力調達時に再生可能エネルギー由来のものを優先 STAGE 1 STAGE 2

首都高で消費する電力の調達において、再生可能エネルギー由来のものを優先的に購入します。

- PAで利用する一部の電力の再生可能エネルギー由来等、ゼロエミッション電源への転換 **STAGE 1**
- 首都高全体の消費電力の全面的なゼロエミッション電源への転換可能性検討 **STAGE 2**

#### 再生可能エネルギーの主な設置場所



### 換気運転の効率化 STAGE 2

換気設備の運用方法見直し等換気運転の効率化による消費電力量削減を検討します。

第1章 首都高カーボンニュートラル戦略

第2章 2050年の首都高

第3章 目標達成に向けた3つの基本方針

# 「首都高カーボンニュートラル戦略」の策定

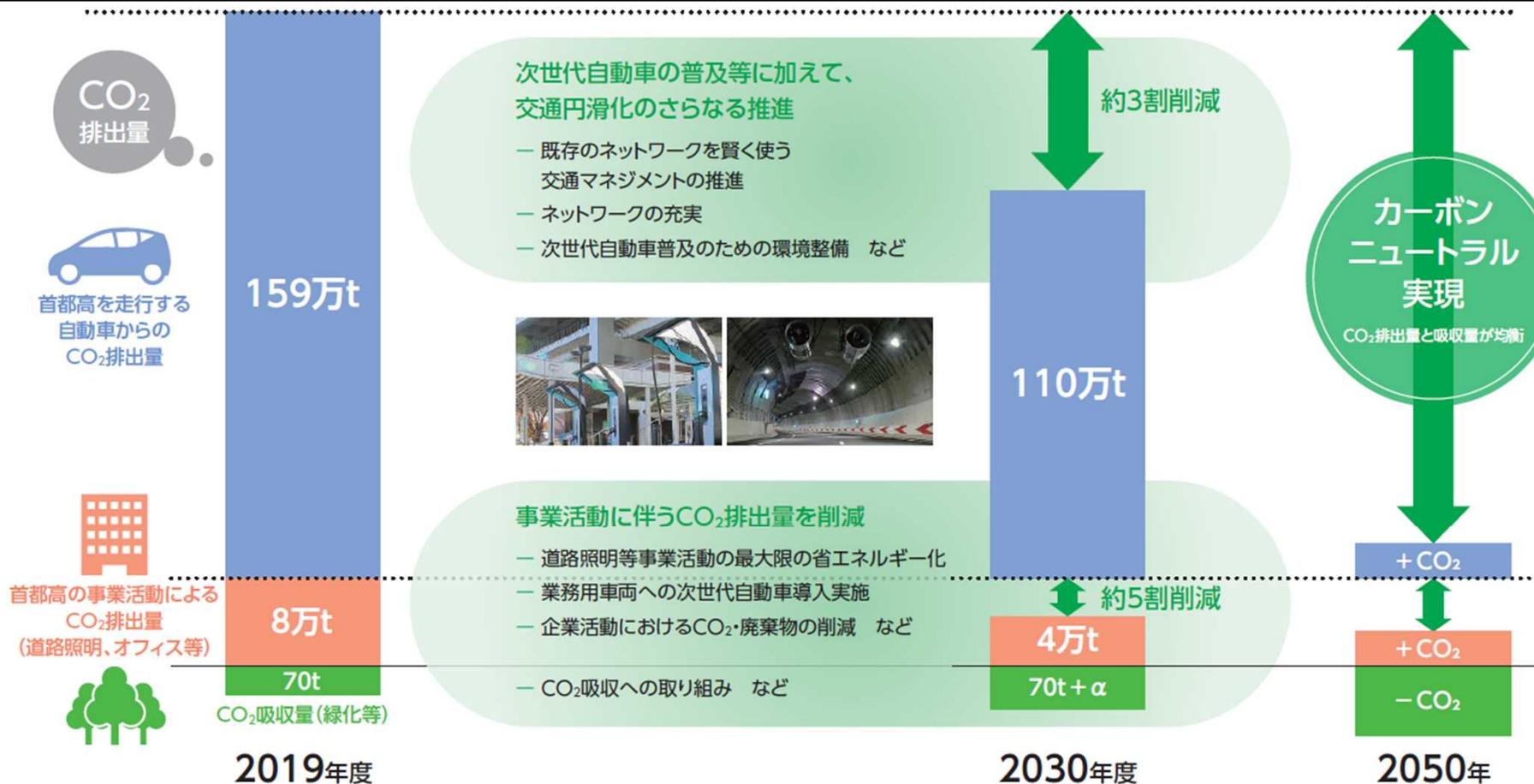
○ カーボンニュートラル実現にあたり、2030年度を中間年次として、目指すべき中間目標を設定

2030年度(目指すべき中間目標)

- ・ 次世代自動車の普及等に加えて、交通円滑化のさらなる推進により、自動車からのCO<sub>2</sub>排出量を約3割削減
- ・ 事業活動に伴うCO<sub>2</sub>排出量約5割削減

2050年(目指すべきゴール)

- ・ カーボンニュートラル実現



---

---

# ご清聴ありがとうございました

首都高カーボンニュートラル戦略

<https://www.shutoko.co.jp/company/carbonneutral/>

